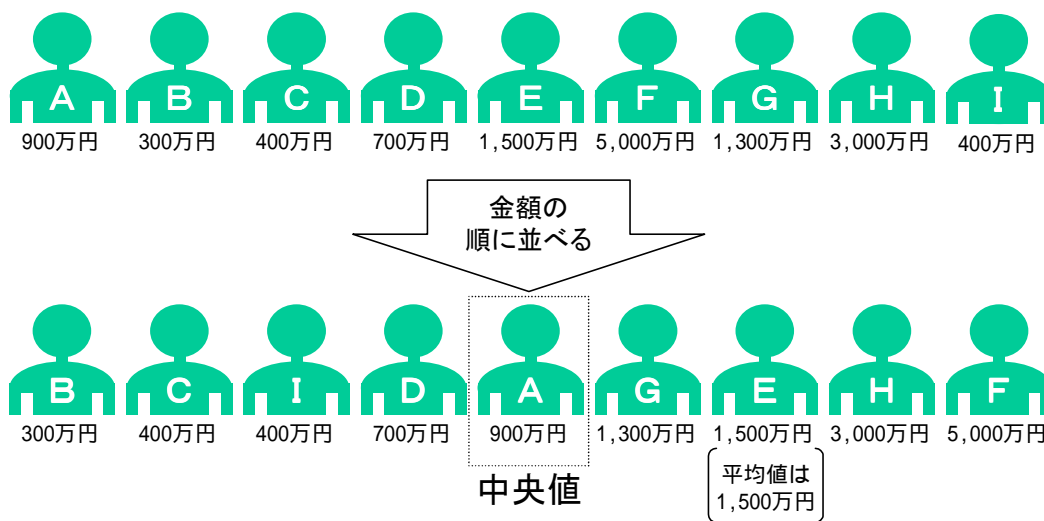


【BOX】平均値と中央値

金融資産保有額の平均値が1,422万円と聞くと、多くの世帯は実感とかけ離れた印象（「自分はそんなに多くの貯蓄を持っていない」）を持つと思われる。これは、平均値が少数の高額資産保有世帯によって、引き上げられているためである。例えば、10世帯のうち9世帯が100万円を持っていて、残りの1世帯が1億円を持っている場合には、平均値が1,090万円となってしまう。10世帯のうち9世帯は、平均値1,090万円と聞いて、その値に驚くだろう。今回調査では、保有世帯3,472世帯のうち約6割が平均値よりも少ない保有額となっている。

こうした平均値の欠点を補うために、ここでは中央値を用いて平均的な家計像を捉える。中央値とは、調査対象世帯を保有額の少ない順（あるいは多い順）に並べたとき中位に位置する世帯の金融資産保有額である。中央値（今回は833万円）では、保有世帯のちょうど半分が自分の貯蓄額よりも多くなり、もう半分が自分の貯蓄額よりも少なくなる。したがって、中央値は世帯全体の実感により近い数字になると考えられる。



平成14年における金融資産保有額の分布は、以下のとおりとなっている。

